

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01303

研究課題名（和文）明治太政官文書を対象とした分散所在史料群の復元的考察に基づく幕末維新史料学の構築

研究課題名（英文）Building a Meiji Restoration Period Historiography Based on a Reconstructive Analysis of the Dispersed Meiji Dajokan Document Groups

研究代表者

箱石 大 (HAKOISHI, Hiroshi)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：60251477

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 6,450,000円

研究成果の概要（和文）：国立公文書館・東京大学史料編纂所・宮内庁の3機関を中心に伝来した明治太政官文書と、三條実美・岩倉具視ら主要な官員の個人文書に含まれる政府関係文書を対象として、各所に分散所在する維新政府文書群の全体構造、伝来の経緯、各文書群に含まれる個別文書の相互関係について、その一端を復元的に解明した。また、押印の痕跡など文書の形状に着目し、これらを手掛かりとして、維新政府における政務処理や議事の実態解明に迫り得る新たな研究方法を提示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現在は各所に分散所在する維新政府文書群の全体像を復元的に解明するとともに、その文書群のうちの一部については画像データをWeb公開したことで、一箇所の所蔵機関や一つの文書群だけでは完結しない研究基盤の構築に貢献した。また、押印の痕跡など個別文書の形状に着目した新たな研究方法の提示は、幕末維新史料を対象とした古文書学的研究の活性化に寄与するだけでなく、近代日本におけるハンコ行政の源流を探る手掛かりを提供することにもなっている。

研究成果の概要（英文）：We examined Meiji Dajokan documents, which were transmitted mainly through the National Archives of Japan, the Historiographical Institute of the University of Tokyo, and the Imperial Household Agency, as well as government documents contained in personal writings of key bureaucrats such as SANJO Sanetomi and IWAKURA Tomomi. Our study elucidated the overall structure of the groups of Meiji Restoration government documents held by each institution, the conditions surrounding their transmission, and the relationship among individual documents contained in each document group. We focused on the documents' form, such as seal placement and traces. Using these materials as a guide, we presented a new research method that could shed light on the Meiji Restoration government's administrative practices and political proceedings.

研究分野：史学

キーワード：日本史 近現代史 史料学 維新政権 明治太政官文書

1. 研究開始当初の背景

国立公文書館所蔵の明治太政官文書は、明治太政官期における国の公文書の中核をなす文書群であるが、1873(明治6)年の皇城及び太政官・宮内省庁舎の火災により、それ以前の文書原本の大半を喪失した。この事態は、維新政権期を対象とした文書原本に基づく研究を困難なものとしてきた。しかし、近年、慶応3(1867)年の大政奉還、王政復古政変による新政府の成立から、明治4(1871)年の廃藩置県までの維新政権期における明治太政官文書原本が、国立公文書館のみならず、東京大学史料編纂所や宮内庁などの各所に分散して伝存することが確認されるようになった。今後はこれらの分散所在文書群を調査・分析することにより、これまで国立公文書館所蔵文書を中心に進められてきた当該期の明治太政官文書研究をさらに発展させる可能性が出てきた。

2. 研究の目的

従来、維新政権期における明治太政官文書の研究は、明治6年(1873)の皇城及び太政官・宮内省庁舎火災後に整備された国立公文書館所蔵文書群を主要な対象として進められてきた。しかし、近年、京都に残置されていたため焼失を免れた文書が、東京大学史料編纂所所蔵「復古記原史料」や国立公文書館所蔵「雑種公文」などとして現存し、さらには、宮内庁が管理する「京都御所東山御文庫別置御物」に、かつては「復古記原史料」と一体であった文書も含まれていることが確認され、いずれも本来は同一の文書群に属するものであったことが判明している。本研究は、東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁を中心に分散的に所在する維新政権期の明治太政官文書を本来の文書群として復元するとともに、アーカイブズ学的・古文書学的観点から、文書群全体の構造や個別文書の様式・機能等についても分析し、幕末維新史研究のための史料学の構築に寄与することを目的としている。

3. 研究の方法

(1) 東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁における明治太政官文書の調査・分析

維新政権期における明治太政官文書原本の主要部分を所蔵・管理する東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁の三機関において調査を行ない、分散所在文書の目録情報等を集成し、その成果に基づき本来の文書群として復元することを試みる。また、各機関の所蔵文書について、可能な限り業者委託による写真撮影を実施する。

(2) 明治太政官文書及びその関連文書の出張調査

前述した三機関以外に所在する維新政権期の明治太政官文書及びその関連文書について出張調査を実施する。

(3) 研究成果の公開

東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁の三機関等において調査を実施した文書の目録情報や画像等を集成し、その成果を可能な限り公開する。東京大学史料編纂所所蔵「復古記原史料」の目録情報や画像については、同所の「所蔵史料目録データベース」に随時登録して公開する。

4. 研究成果

(1) 東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁が所蔵・管理する明治太政官文書の調査・研究・東京大学史料編纂所所蔵「復古記原史料」の詳細目録データ 4332 件を作成し、内容分析を行なった。その中には、明治太政官文書のほかに、近世朝廷の議奏役所に蓄積したと考えられる文書も混入していた。これらは、本来保存されにくく廃棄されがちな性格の文書であるが、議奏の職務を復元するための貴重な史料であることが確認された。なお、「復古記原史料」の詳細目録データは、東京大学史料編纂所の「所蔵史料目録データベース」から順次 Web 公開している。

- ・東京大学史料編纂所所蔵の明治天皇宸筆勅書(登録名「明治天皇宸翰御沙汰書」)の料紙を対象として、精密な法量の計測と表面観察、顕微鏡を使用した観察・撮影記録に基づく構成物分析を内容とする原本史料調査を実施し、本紙・包紙が共紙であることが裏付けられるなどの成果が得られた。

- ・国立公文書館所蔵「雑種公文」慶応4年6月分に収録された文書の詳細目録データ 653 件、同館所蔵「日記」(官掌による弁事伝達所の文書受付簿)慶応4年6月分の文書提出人名データ 1243 件、同館所蔵「記録材料:御沙汰書御附帙之留」慶応4年6月分のデータ 302 件を作成し、「復古記原史料」との対照作業及び比較検討を行なった。その結果、「復古記原史料」と国立公文書館所蔵の諸文書は相互に補完関係にあり、これらを組み合わせることで、維新政府の政務処理を復元することが可能であるとの展望を得た。

- ・江戸幕府文書である国立公文書館所蔵「多聞櫓文書」に混入した明治太政官文書 460 点を抽出し、複写画像データを収集して分析を行なったことにより、これらの文書が、「復古記原史料」

料」と本来は一体の文書群であったことが確実となった。

- ・国立公文書館所蔵「記録材料」から、軍防事務局・軍務官・兵部省関係の文書 38 点を抽出し、現在公開中のデジタルアーカイブからは得られないカラー複写画像データを収集した。
- ・宮内庁書陵部図書課宮内公文書館所蔵「三条公行実編輯掛本」を調査し、そこに含まれる明治太政官関係文書 1977 点の所在を確認した。そのうち 209 点の複写画像データを収集して内容分析を行ない、「復古記原史料」との関係性を明らかにしたほか、文書上における政務処理の痕跡である検印・署名印（署印）といった押印の事例も多数抽出した。

(2) 前記以外の明治太政官文書及びその関連文書の調査・研究

- ・計画当初は想定していなかった国指定重要文化財を含む岩倉具視関係文書の調査及びデジタル写真撮影が可能となった。各所に分散所在する岩倉具視関係文書のうち、海の見える杜美術館所蔵「岩倉具視関係史料」（国指定重要文化財）については、『岩倉具視関係史料』（思文閣出版刊）所収編年目録の電子化を行ない、文書群全体の概要調査を実施した。京都市歴史資料館所蔵「岩倉具視関係資料」（国指定重要文化財）については、文書を含む資料群全体の現状を確認した。また、京都府立京都学・歴史館所蔵「山本読書室資料」中の岩倉具視関係史料についても概要調査を実施した。
- ・岩倉具視関係文書については、海の見える杜美術館所蔵「岩倉具視関係史料」のうち「功臣遺墨」（第一巻～第六十巻）の調査及びデジタル写真撮影を、京都市歴史資料館所蔵「岩倉具視関係資料」のうち「叢裡鳴虫」・「万里風信」・「長閑玉章」・「岩倉公書簡」・「岩倉公関係文書」（第一巻～第三十巻）のデジタル写真撮影を、それぞれの所蔵機関の協力を得て実施した。これらの岩倉具視関係文書からも、検印・署名印（署印）といった押印の事例を多数抽出したほか、同一文書の原本と写本を照合し、現状では失われている文書本来の形状を復元することも試みた。
- ・2022 年 10 月 3 日、海の見える杜美術館と連携し、同館所蔵「岩倉具視関係史料」の画像（モノクロマイクロフィルムスキャン画像データ）約 4165 点を、東京大学史料編纂所のデータベース Hi-CAT Plus より Web 公開した。
- ・防衛省防衛研究所所蔵の陸軍省・海軍省伝来文書を調査し、その一部について複写画像データの収集と分析を行なった。そのうち、海軍省の文書として伝来した数少ない兵部省時代の一次史料である「海軍御創立二付諸取調并建白」と、「兵部省書類鈔録」（明治元～2 年、3 冊）を分析した成果の一部を報告した。
- ・早稲田大学図書館所蔵「中御門家文書」について、『中御門家文書目録』慶応 3 年～明治 4 年分の電子化を行ない、中御門経之関係文書原本の概要調査を実施した。これにより、明治太政官文書と判断される文書類が相当数存在し、その中には東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁が所蔵・管理する文書と相互関係があるものも含まれていることを確認した。そのうち冊子 1 冊と卷子 10 巻分の文書については、複写画像データを収集して内容分析を行なった。
- ・鳥取県境港市指定有形文化財（歴史資料）「門脇重綾遺品」は、門脇の子孫である個人の家に伝来した史料群であるが、所蔵者の許可を得て、境港市教育委員会が作成した目録データと画像データの提供を受け、内容分析を行なった。鳥取藩士の門脇重綾は、徴士として維新政府に登用され、行政官弁事などを歴任した人物である。
- ・松陰神社宝物殿至誠館所蔵前原家寄贈資料のうち前原一誠関係文書について、参議・兵部大輔時代の文書を中心に調査し、伝記編纂の材料にもなった文書が現存することを確認した。
- ・以上のような調査・研究により、東京大学史料編纂所・国立公文書館・宮内庁の 3 機関を中心に、さらには三条実美・岩倉具視をはじめとする官員個人文書中にも分散的に所在する維新政府文書群の全体構造、伝来の経緯、各文書群に含まれる個別文書の相互関係などについて、その一端を復元的に解明し、現存する明治太政官文書の本来的な一体性を再確認した。また、検印・署名印（署印）という押印の痕跡や、付紙（付箋）・書き入れといった文書の形状に着目し、これらを手掛かりとして、維新政府の弁事役所を中心とした政務処理や、議政官による議事の実態解明に迫り得る新たな研究の方法を提示した。

(3) 研究成果の公開

- ・2023 年 1 月 28 日、研究代表者・研究分担者・研究協力者を報告者とする公開研究会「明治太政官文書の史料学」をオンラインで開催した。内容は、以下の通り。

箱石 大	研究概要説明
柏原洋太	「留守官文書」の来歴と機能について 国立公文書館所蔵分を中心に
白石 烈	岩倉具視関係史料(海の見える杜美術館所蔵)にみる署印と検印
宮間純一	三条実美関係文書にみる「明治太政官文書」
村 和明	復古記原史料中の旧朝廷関係文書の性格について

- ・2023 年 3 月 31 日、東京大学史料編纂所研究成果報告 2022-7 として、『明治太政官文書を対象とした分散所在史料群の復元的考察に基づく幕末維新史料学の構築 JSPS 科研費（課題番号 19H01303）研究成果報告書』（A4 版・193 頁）を刊行した。内容は、以下の通り。

研究の概要
研究報告

箱石 大 維新时期明治太政官文書の史料学

- 柏原洋太 留守官文書の来歴と機能について 国立公文書館所蔵分を中心に
佐藤大悟 国立公文書館所蔵「多聞櫓文書」のなかの「明治太政官文書」
白石 烈 京都御所由来の明治維新関係史料
白石 烈 岩倉具視関係史料（海の見える杜美術館所蔵）にみる署印と検印
宮間純一 三条実美関係文書にみる「明治太政官文書」
- 調査報告
石田七奈子 弁事役所の受領文書処理について 国立公文書館所蔵文書と復古記原史料
の比較から
- 史料紹介
村 和明 「復古記」原史料中の近世朝廷文書について 議奏役所と天皇・非蔵人
柏原洋太・佐藤大悟 東京大学史料編纂所所蔵「正院記録課書目」

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 箱石 大	4. 巻 17
2. 論文標題 新政府による諸藩編制と軍事関係文書の管理	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 明治維新史研究	6. 最初と最後の頁 102-117
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石 烈	4. 巻 -
2. 論文標題 久留里藩公議人田丸謙蔵（文彬）の記録と活動	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 小関悠一郎・上総古文書の会編『久留里藩における藩政運営能力の形成と蓄積』	6. 最初と最後の頁 52-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱石 大	4. 巻 248
2. 論文標題 明治政府による記録編纂・修史事業と近代文書	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐藤雄基編『アジア遊学 明治が歴史になったとき：史学史としての大久保利謙』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 49-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱石 大	4. 巻 31
2. 論文標題 明治太政官文書研究からみた「宸翰御沙汰書」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所研究紀要	6. 最初と最後の頁 266-283
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水上 たかね	4. 巻 28
2. 論文標題 維新时期日本の統治体制と“海軍創立”	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 洋学史学会研究年報 洋学	6. 最初と最後の頁 53-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱石 大・高島晶彦・渋谷綾子	4. 巻 95
2. 論文標題 東京大学史料編纂所蔵明治天皇宸筆勅書の料紙調査報告	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮間 純一	4. 巻 -
2. 論文標題 明治初年のキリシタン統制に関する一考察 宗門改を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大友一雄・太田尚宏編『パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ資料の総合的研究』(マレガ・プロジェクト(国文学研究資料館))	6. 最初と最後の頁 449-467
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮間 純一	4. 巻 67
2. 論文標題 明治期における大名華族と旧臣団 佐竹侯爵家と旧大館給人	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 (中央大学文学部)紀要 史学	6. 最初と最後の頁 51-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村 和明	4. 巻 -
2. 論文標題 近世朝廷の日記の世界 伝統と新展開	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 福田千鶴・藤實久美子編著『史料で読み解く日本史4 近世日記の世界』（ミネルヴァ書房）	6. 最初と最後の頁 35-54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 水上 たかね	4. 巻 718
2. 論文標題 明治二年の軍務官再編 本部・出張所体制と会計・艦船	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本史研究	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱石 大	4. 巻 99
2. 論文標題 海の見える杜美術館所蔵「岩倉具視関係史料」画像のウェブ公開	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター通信	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石 烈	4. 巻 875
2. 論文標題 幕末政治史研究（中央政局分析）入門	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 箱石 大	4. 巻 46
2. 論文標題 明治太政官文書の史料学的研究 現状と課題	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 中央史学	6. 最初と最後の頁 27-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 箱石 大
2. 発表標題 明治太政官文書研究からみた「宸翰御沙汰書」
3. 学会等名 東京大学史料編纂所国際研究集会「近代修史事業と史料集編纂の150年」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 水上 たかね
2. 発表標題 明治三年の兵部省の海軍構想と諸藩 防衛省防衛研究所所蔵「海軍御創立二付諸取調并建白」の分析から
3. 学会等名 幕藩研究会1月例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 水上 たかね
2. 発表標題 維新时期日本の統治体制と“海軍創立”
3. 学会等名 洋学史学会例会ミニシンポジウム「洋学と陸海軍の創設(パート2) 技術と制度の移転」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 箱石 大
2. 発表標題 明治太政官文書の史料学的研究 現状と課題
3. 学会等名 第47回中央史学会大会シンポジウム「近代政治史研究の現在 明治太政官制研究から 」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>海の見える杜美術館所蔵「岩倉具視関係史料」デジタル画像のWeb公開 https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/articles/z0206_00017.html</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村 和明 (MURA Kazuaki) (70563534)	東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授 (12601)	
研究分担者	宮間 純一 (MIYAMA Junichi) (10781867)	中央大学・文学部・教授 (32641)	
研究分担者	水上 たかね (MIZUKAMI Takane) (20835483)	東京大学・史料編纂所・助教 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	白石 烈 (SHIRAISHI Tsuyoshi)	宮内庁書陵部・編修課・主任研究官	
研究協力者	長坂 良宏 (NAGASAKA Yoshihiro)	国立公文書館・統括公文書専門官室・公文書専門官	
研究協力者	石田 七奈子 (ISHIDA Nanako)	東京大学・史料編纂所・学術専門職員 (12601)	
研究協力者	柏原 洋太 (KASHIWABARA Hirotaka)	千葉県文書館・行政文書資料課・主事	
研究協力者	寺島 宏貴 (TERASHIMA Hirotaka) (80909797)	国立国語研究所・共同利用推進センター・プロジェクト非常勤研究員 (62618)	
研究協力者	高島 晶彦 (TAKASHIMA Akihiko)	東京大学・史料編纂所・技術専門職員 (12601)	
研究協力者	佐藤 大悟 (SATO Daigo) (90877028)	青山学院大学・青山学院史研究所・助手 (32601)	
研究協力者	渋谷 綾子 (SHIBUTANI Ayako) (80593657)	東京大学・史料編纂所・特任助教 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	天野 真志 (AMANO Masashi) (60583317)	国立歴史民俗博物館・研究部・准教授 (62501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関